

主 論 文 要 旨

報 告 番 号	甲 ㊦ 第	号	氏 名	庄 司 真 弓
主 論 文 題 名 Sexual Satisfaction of infertile couples assessed using the Golombok-Rust Inventory of Sexual Satisfaction (GRISS) (不妊外来に通院するカップルにおけるGolombok-Rust Inventory of Sexual Satisfaction (GRISS)によるセクシャリティの客観的評価法の開発)				
(内 容 の 要 旨) 生殖医療において、夫婦生活のタイミング指導や生殖補助医療技術 (assisted reproductive technology :ART) などの治療的介入が、不妊外来通院中のカップルにストレスをもたらす要因となることは広く認識されている。しかしながら、不妊外来通院中のカップルのセクシャリティ (性生活、性行動のあり方や満足感) が、不妊治療経験のないカップルに比べ、実際に低下しているのか、低下しているとすればそれは本当に不妊治療に因るものなのかについて、客観的に調査・分析した報告はない。そこで、本研究では、日本人カップルのセクシャリティを客観的に評価する質問票により、不妊外来通院中のカップルの性生活の特徴や問題点を明らかにし、不妊治療が夫婦のセクシャリティに与える影響を検討することを目的とした。 本研究では、男女それぞれ、あるいはカップル間のセクシャリティを評価するために、Golombok-Rust Inventory of Sexual Satisfaction (GRISS) の日本語版を作成して用いた。GRISS (英語版) は、すでにセクシャリティの定性的・定量的な分析に有用であることが知られている。不妊外来通院中の患者及び自然妊娠のカップル各170組、計340人を無作為に抽出し、文書による同意を得て質問票を配布した。回答後質問票は次回来院時に持参または郵送していただき、回収した (有効回答率185組、54.4%) 。 その結果、不妊外来通院中のカップルと自然妊娠したカップルの両群において、セクシャリティが年齢と共に低下する傾向が認められた。特に女性よりも35歳以上で不妊治療を開始したカップルの男性において顕著であり、この結果は従来の研究結果とは対照的なものであった。また、自然妊娠群に比べ不妊外来通院群では、男女ともにタイミング指導やARTなどの治療介入によりカップルのセクシャリティは低下したが、本研究ではそれが身体的要因よりも精神的要因に起因していることも明らかになった。 本研究ではGRISSの日本語版を作成し、それを用いることで不妊外来通院中のカップルのセクシャリティの低下を客観的に評価することが可能であった。今後はこの評価法を活用することで、生殖医療におけるカウンセリング指導の介入と効果判定が容易になり、セクシャリティの改善、ひいては妊孕性の向上に寄与すると考えられた。				